



---

# 川崎市一般廃棄物処理基本計画等の改定の考え方について

---

川崎市環境局

- 01 | **計画の概要**
- 02 | 主な取組
- 03 | ごみ排出実績及び課題
- 04 | プラスチック資源の一括回収
- 05 | 市民アンケート結果
- 06 | 次期廃棄物計画の改定に向けて

# (1) 計画の概要「一般廃棄物処理基本計画」

## 基本計画の概要

基本理念	地球環境にやさしい持続可能なまちの実現をめざして	※1 2022.3に見直し898g→872g
計画期間	2016～2025年度	
計画目標	①1人1日ごみ排出量10%削減（998g→898g※1）、②ごみ焼却量4万t削減（37万t→33万t）	

## 施策体系

※基本理念と方針のもと、5つの基本施策と61個の具体的取組（行動計画）を位置づけ

<p>基本理念</p> <p>地球環境にやさしい持続可能なまちの実現をめざして</p> <p>基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○社会状況の変化等に的確に対応し、限りなくごみをつくらぬ社会を実現します</li> <li>○市民・事業者・行政の協働によりエコ暮らしを実践し、さらに3Rを推進します</li> <li>○安心して健康に暮らせる快適な生活環境を守ります</li> </ul>	基本施策	<p>I「環境市民」をめざした取組</p> <p>①環境教育・環境学習の推進 ③市民参加の促進 ②情報共有の推進</p>
		<p>II ごみの減量化・資源化に向けた取組</p> <p>①家庭系ごみの減量化・資源化 ③市の率先したごみの減量化・資源化 ②事業系ごみの減量化・資源化 ④生ごみの減量化・資源化</p>
		<p>III 廃棄物処理体制の確立に向けた取組</p> <p>①安全・安心な処理体制の確立 ③効果的・効率的な処理体制の構築 ②3処理センター体制の安定的な運営</p>
		<p>IV 健康的で快適な生活環境づくりの取組</p> <p>①まちの美化推進 ③不適正排出対策等の取組 ②市民ニーズに対応した取組の推進</p>
		<p>V 脱炭素社会・自然共生社会をめざした取組</p> <p>①エネルギー資源の効果的な活用 ②脱炭素・自然共生をめざした資源の有効利用 ③環境に配慮した処理体制の構築 ④蓄積された環境技術等を活かした取組</p>

- 01 | 計画の概要
- 02 | **主な取組**
- 03 | ごみ排出実績及び課題
- 04 | プラスチック資源の一括回収
- 05 | 市民アンケート結果
- 06 | 次期廃棄物計画の改定に向けて

## (2) 主な取組

### 施策毎の主な取組

#### ○基本施策Ⅰ「環境市民」をめざした取組

##### ・環境教育（ICTを活用したコンテンツ）や多様な媒体を活用した広報の実施

ごみの出し方など様々な情報を提供する「川崎市ごみ分別アプリ」開始（2016年度）

GIGAスクール構想により社会科副読本「くらしとごみ」のデジタル版を作製（2023年度）

#### ○基本施策Ⅱ ごみの減量化・資源化に向けた取組

##### ・分別品目の拡充

プラ製容器包装とプラ製品の一括回収開始（2024年度：川崎区、25年度：幸・中原区、26年度：全市へ拡大）

##### ・事業者と連携したリユースの強化

リユースプラットフォームの紹介（2021年度）や官民連携のリユーススポットの実証（2022年度）

##### ・ごみ処理手数料の改定 事業系搬入手数料や粗大ごみ処理手数料などの改定（2017年度、23年度）

#### ○基本施策Ⅲ 廃棄物処理体制の確立に向けた取組

##### ・民間活力の導入など効果的・効率的な処理体制の推進

市内に生活環境事業所を4か所に統合（2019年度）

収集運搬業務の委託化（空き缶・ペット（2017年度（全市拡大）、普通ごみ（24年度全市拡大））

※一部地域のみ

##### ・廃棄物処理施設の計画的な建替

橘処理センター（2024年度本格稼働）、王禅寺資源化処理施設（2016年度稼働）

## (2) 主な取組

### 施策毎の主な取組

#### ○基本施策Ⅲ 廃棄物処理体制の確立に向けた取組

##### ・災害・緊急時に備えた「災害廃棄物等処理実施計画」の策定（2018年度）

一般廃棄物処理連絡協議会、横浜市など災害時等における関係者との連携強化に向けた協定を締結

#### ○基本施策Ⅳ 健康的で快適な生活環境づくりの取組

##### ・一時多量ごみの制度開始

遺品整理・引越等に伴い一時的に多量排出される家庭系廃棄物の新たな収集運搬制度を創設（2020年度）

見守りサービスと連携した高齢者や障害者を対象とするふれあい収集の拡充（2020年度）

##### ・資源物等の持ち去り対策の強化

資源物等の持ち去り禁止に関する条例施行し、早朝パトロールや通報に基づく調査の実施（2022年度）

#### ○基本施策Ⅴ 脱炭素社会・自然共生社会をめざした取組

##### ・事業者と連携したプラスチック資源循環の取組

かわさきプラスチック循環プロジェクトの設立（2022年度）

ペットボトルの水平リサイクルの他、その他のプラスチック資源循環に向けた様々な取組推進

##### ・環境に配慮した処理体制の構築

廃棄物発電を活用した取組（公共施設へ供給、E V ゴミ収集車）（2016年度～）

廃棄物発電等を活用した地域エネルギー会社の創設（2023年度）

- 01 | 計画の概要
- 02 | 主な取組
- 03 | **ごみ排出実績及び課題**
- 04 | プラスチック資源の一括回収
- 05 | 市民アンケート結果
- 06 | 次期廃棄物計画の改定に向けて

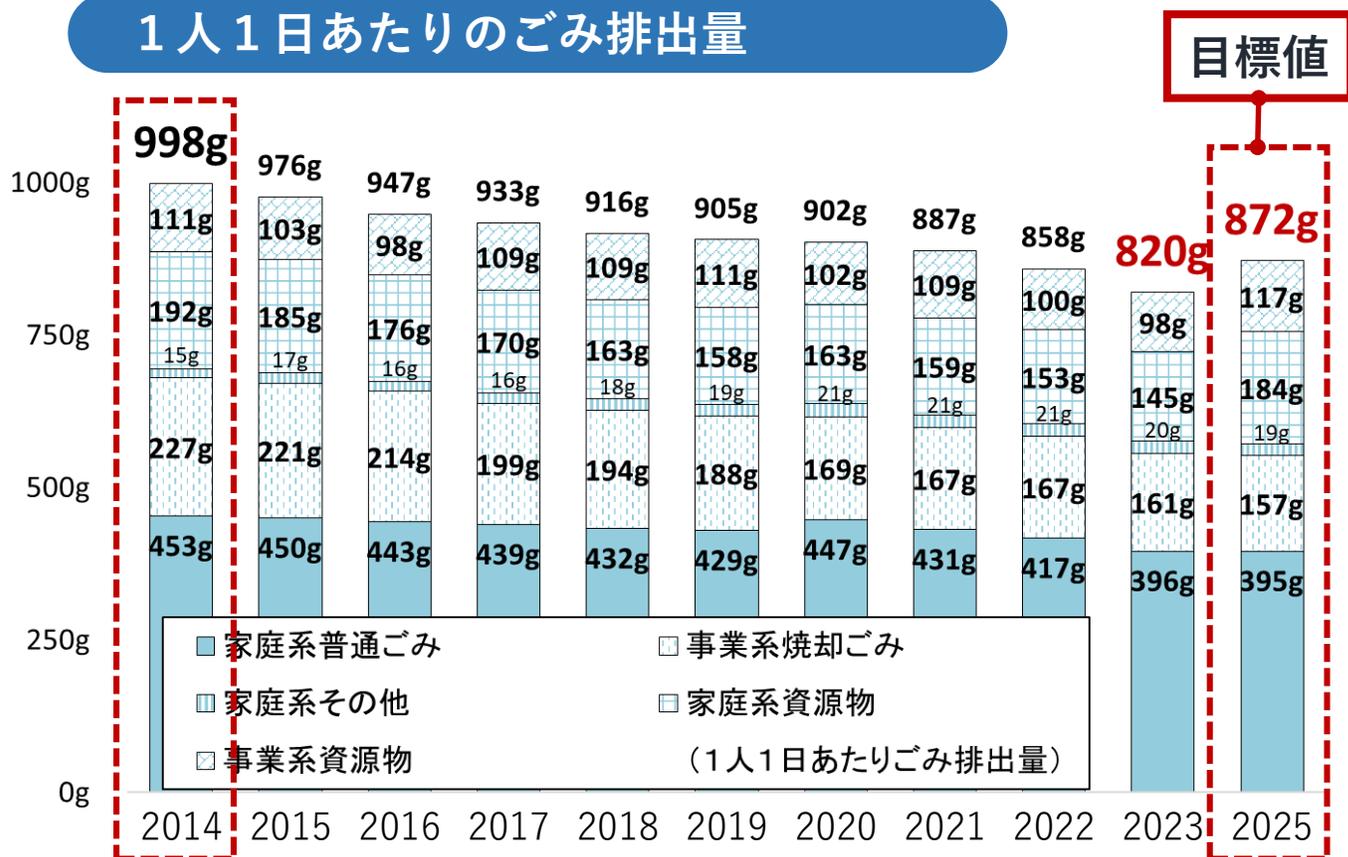
### (3) ごみ排出実績及び課題

#### ○ごみの減量、家庭系資源物の分別率

【成果】 1人1日あたりのごみ排出量は政令市最少が見込まれ、目標以上のごみ減量を達成

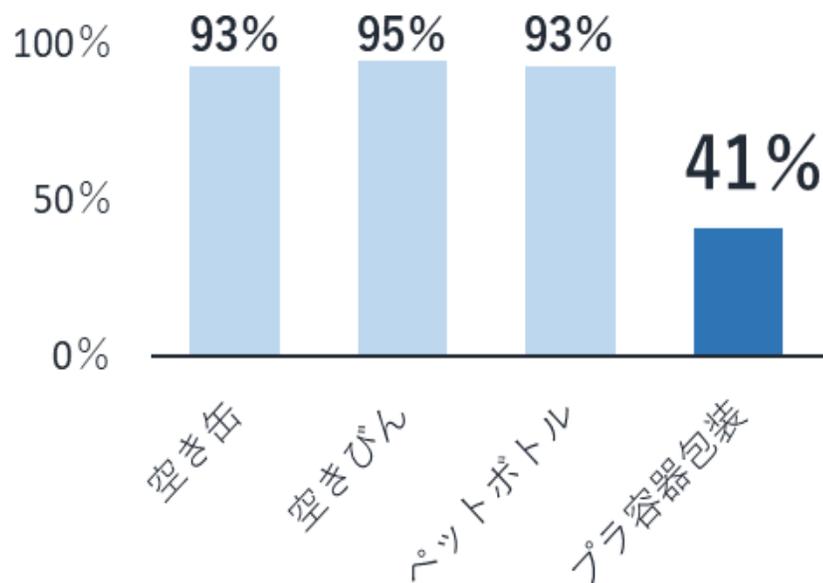
【課題】 プラ容器包装は41%の分別率にとどまる

#### 1人1日あたりのごみ排出量



#### 各資源物の分別率（2023年度実績）

#### 市内の家庭から排出される各資源物の分別率



※家庭系その他：粗大可燃分・一時多量ごみ

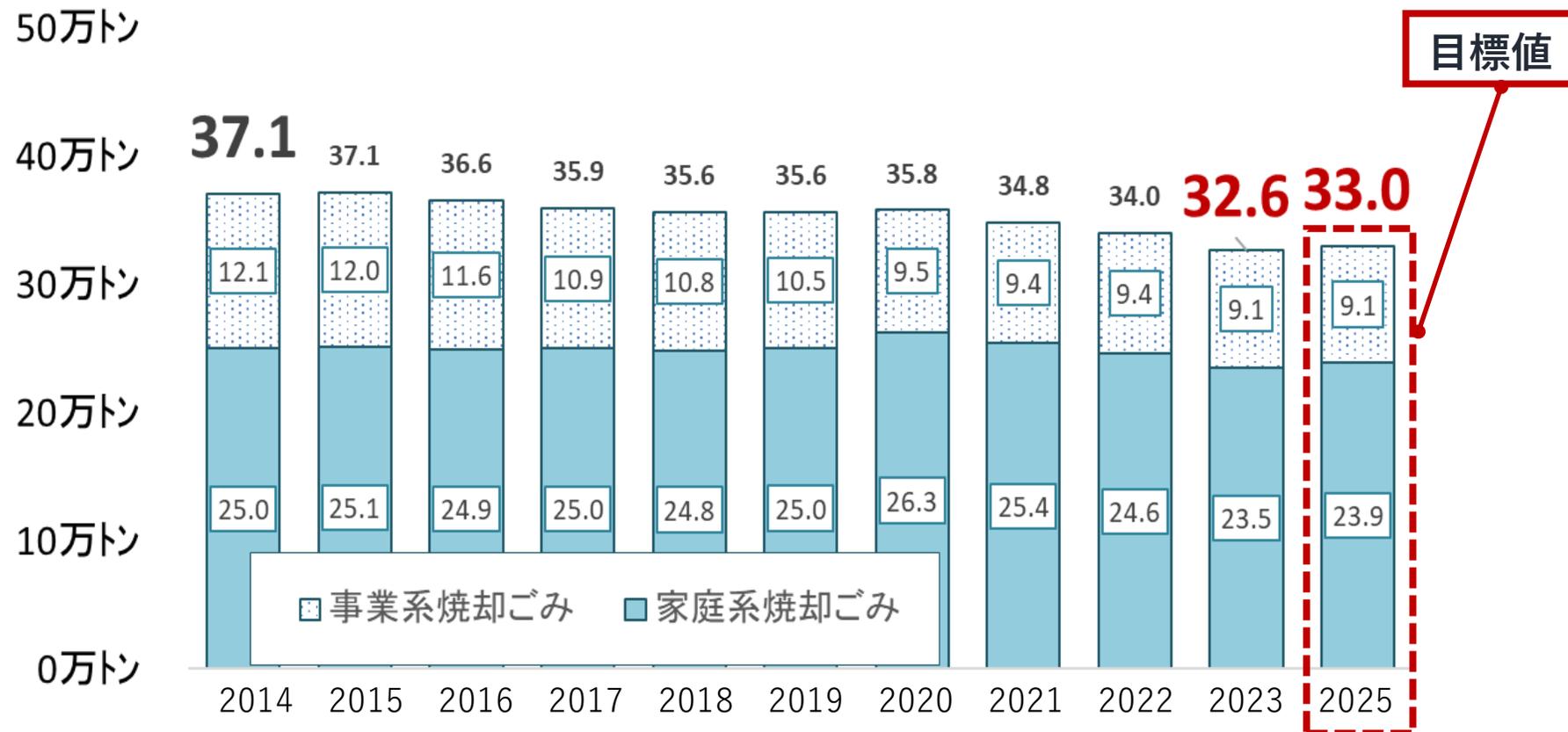
### (3) ごみ排出実績及び課題

#### ○ごみ焼却量の削減の推進

【成果】 ごみ焼却量は2025年度目標を前倒しで達成済

【課題】 順調に減少しているものの脱炭素化に向けて引き続き削減が必要

#### ごみ焼却量の推移

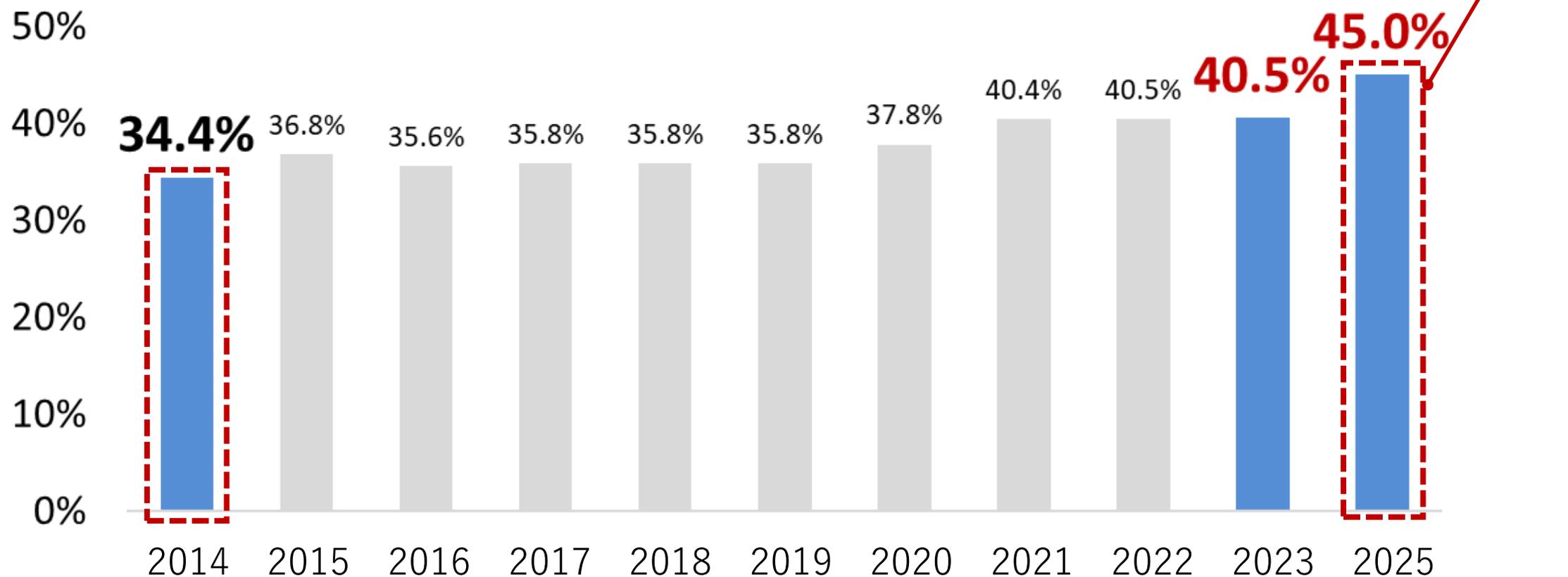


### (3) ごみ排出実績及び課題

#### ○プラスチック製容器包装の分別率

【課題】分別率は着実に上昇してきたが、近年は約40%で横ばい、目標値45%に向けて更なる取組が必要

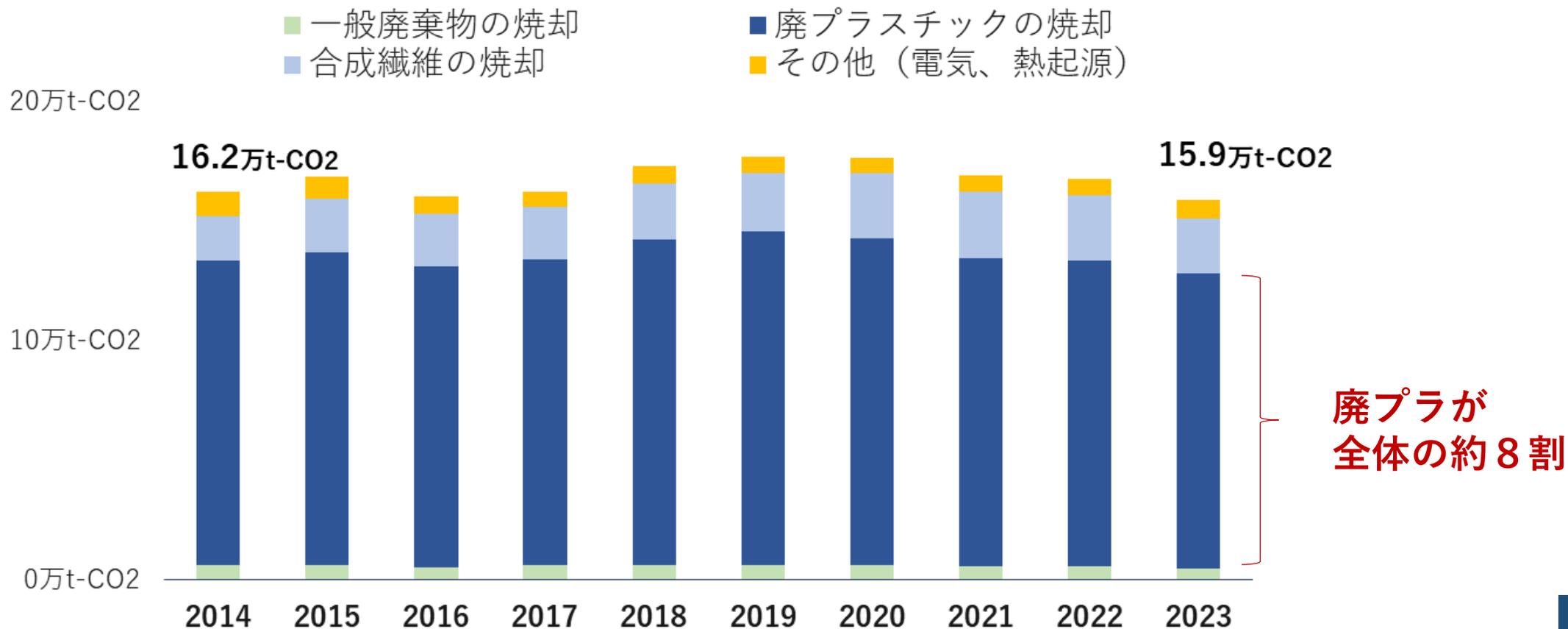
#### プラスチック製容器包装の分別率の推移



### (3) ごみ排出実績及び課題

#### ○市の焼却施設における温室効果ガス排出量の内訳及び推移

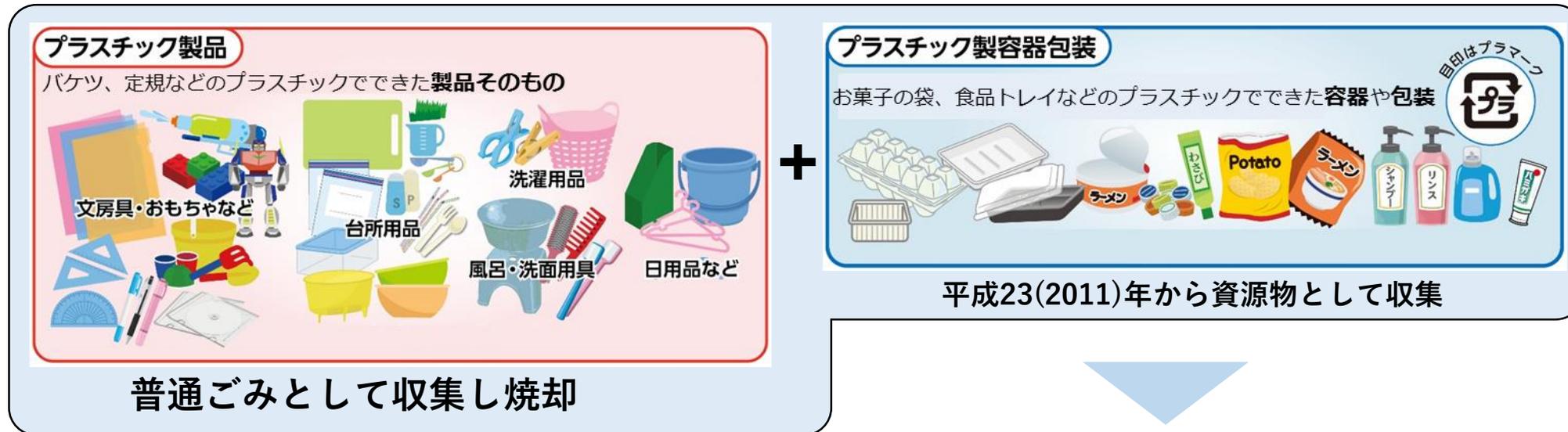
【課題】 廃棄物分野の排出量は廃棄物焼却による排出がほとんどを占めており、その内訳は**廃プラが約8割**、**ポリエステル等の合成繊維由来が約1割**であり、**廃プラや衣類等の合成繊維の焼却量を減らすことが重要**



- 01 | 計画の概要
- 02 | 主な取組
- 03 | ごみ排出実績及び課題
- 04 | **プラスチック資源の一括回収**
- 05 | 市民アンケート結果
- 06 | 次期廃棄物計画の改定に向けて

## (4) 家庭から排出されるプラスチック資源の一括回収について

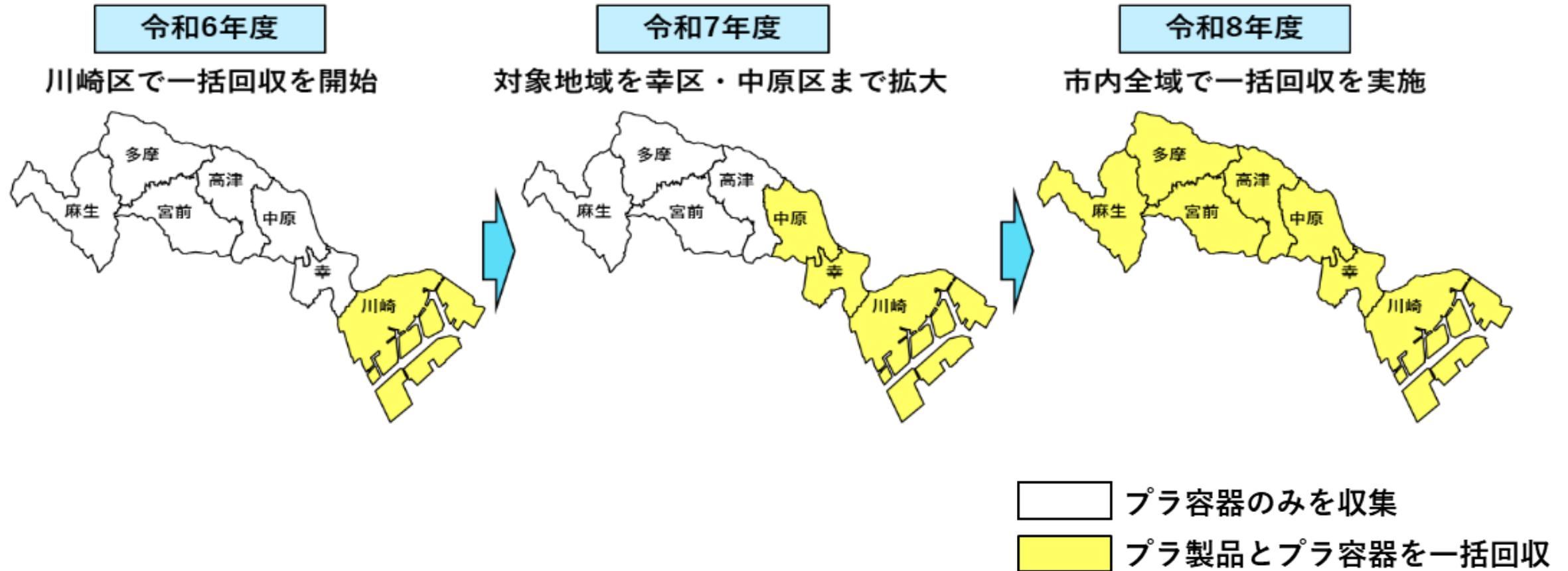
- プラごみの焼却により多量のCO<sub>2</sub>が発生することから、脱炭素社会の実現に向けて、**プラスチックごみ焼却量の削減が重要**（廃棄物焼却によるCO<sub>2</sub>等排出量の約8割がプラ由来）



- ・ 令和6年度から資源物として一括回収してリサイクル（川崎区から先行開始）
- ・ 分別品目名を「プラスチック資源」に変更

## (4) 家庭から排出されるプラスチック資源の一括回収について

○安定的な処理体制構築のため段階的に対象地域を拡大



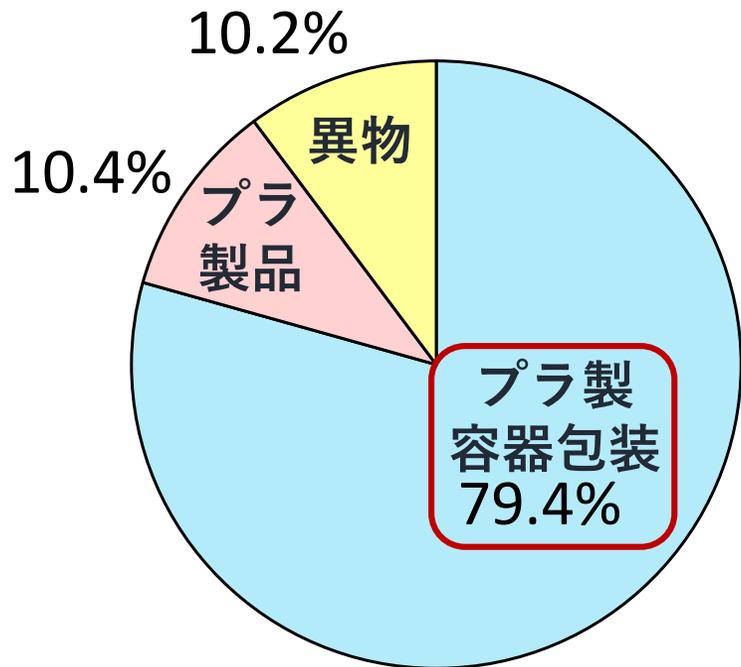
## (4) プラスチック資源一括回収（川崎区先行実施の状況について）

### ○収集量の変化

4～8月合計					
R5年度		R6年度		R5⇒R6比率	
川崎	6区合計	川崎	6区合計	川崎	6区合計
758 t	5,251 t	863 t	5,275 t	113.7%	100.5%

- ・ 川崎区のプラスチックの収集量が**13.7%**増加
- ・ 一括回収を実施していない6区の増加率(0.5%)よりも増加率が大きい

### ○収集したプラスチック資源の組成



- ・ プラスチック資源のうちの**8割はプラ製容器包装**
- ・ プラ製品の割合は1割程度
- ・ 異物（ひどく汚れているプラ、紙ごみ等）の割合は1割程度

※R3・R4年度に実施した実証試験と同程度



## (4) 収集したプラスチック資源に含まれるもの

### ○プラスチック資源の組成調査の結果

#### 【収集物の中のプラスチック製品】



#### ▲様々なプラスチック製品を確認

#### 【収集物に混入していた禁忌品】



#### ▲発火事故や手選別作業員が負傷・感染する恐れのある禁忌品の混入

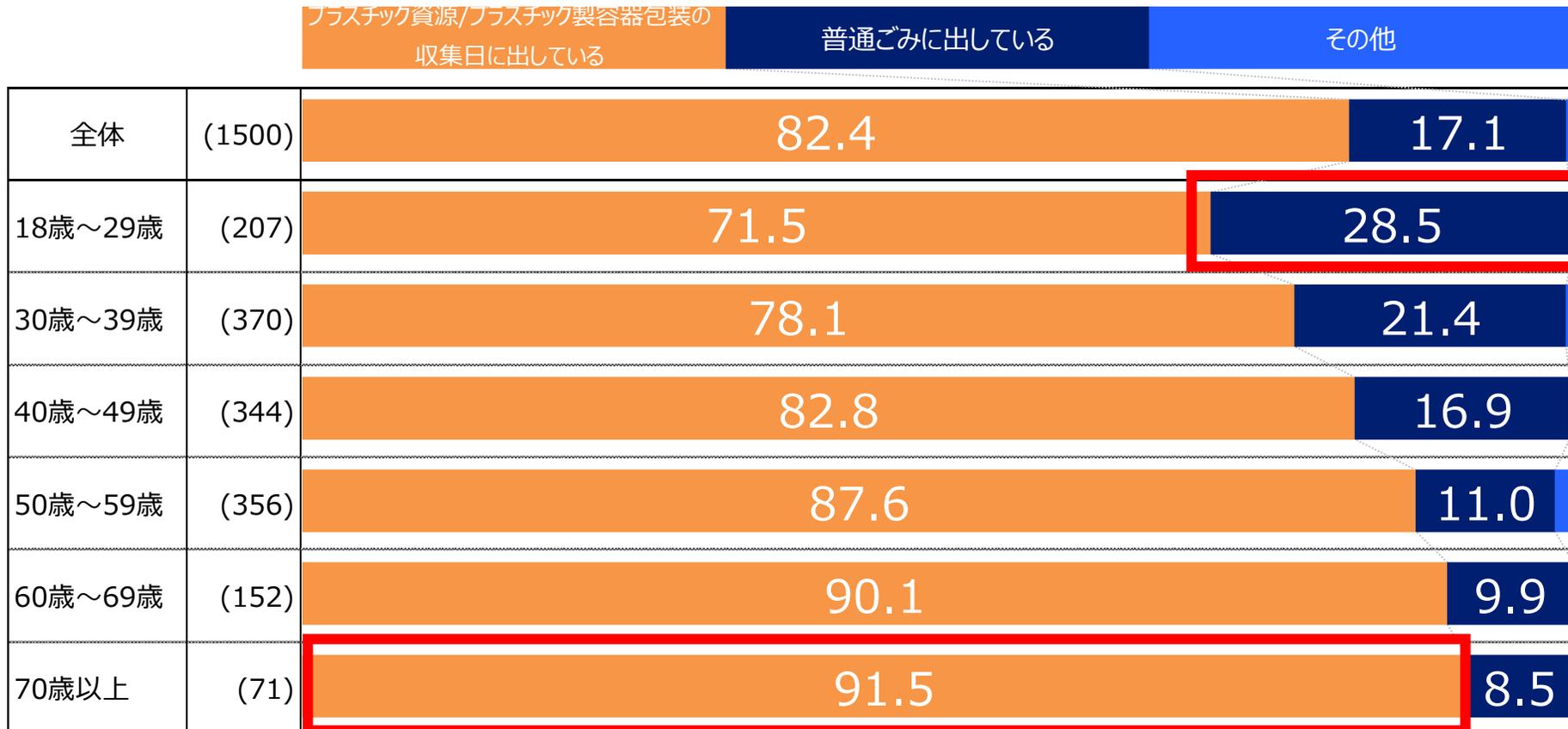
- 01 | 計画の概要
- 02 | 主な取組
- 03 | ごみ排出実績及び課題
- 04 | プラスチック資源の一括回収
- 05 | **市民アンケート結果**
- 06 | 次期廃棄物計画の改定に向けて

## (4) 市民アンケート結果（市民の主な意識等）

### 令和6年度川崎市の資源物とごみに関するアンケート（年代別）※市民1500人WEBアンケート

Q.プラスチック資源/プラスチック製容器包装は、主にどのように出していますか（1つ選択）

▼年齢が高くなるにつれ、プラスチック資源/プラスチック製容器包装の収集日に出している割合が増えている。一方、10～20代の約3割は普通ごみに出している

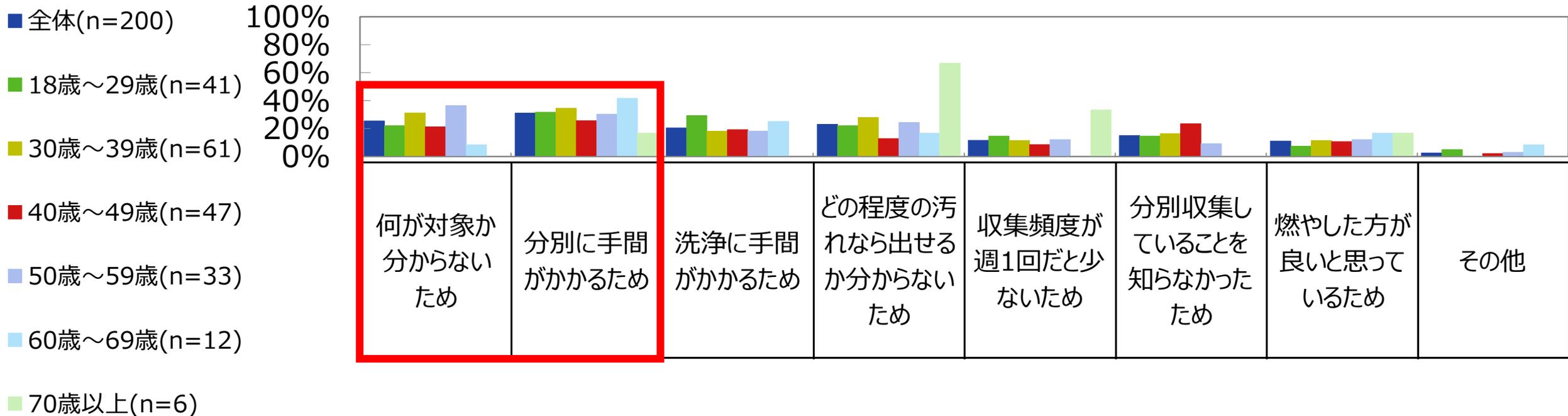


## (4) 市民アンケート結果 (市民の主な意識等) ※川崎区以外

令和6年度川崎市の資源物とごみに関するアンケート (年代別) ※市民1500人WEBアンケート

Q.プラスチック製容器包装を普通ごみに出している理由を教えてください (いくつでも選択可)

▼全年代で「分別に手間がかかるため」が高く、次に「何が対象かわからないため」の割合が高い



## (4) 市民アンケート結果（市民の主な意識等）

### ○令和6年度 市民WEBアンケートによる廃棄物に関する市民意識等

#### <主な意見>

- ごみの分別や3Rにどの程度関心があるかについて  
約7割が関心があるが、一方で約3割は関心がない
- プラ製容器包装は主にどのように出しているかについて（※川崎区はプラスチック資源）  
約2割の方が普通ごみに出している。その理由は分別の手間、汚れ具合、対象が分からないが各2～3割
- リサイクルやリユースされた製品を積極的に使いたいかについて  
約1割が既に使っており、約7割が使いたい、一方で約2割は使いたくない
- ごみ処理に関するどのような情報が知りたいかについて  
分別に迷った際の出し方が約5割、どの場所で何の資源物を回収しているかが約3割、  
災害時の出し方が約2割、分別後の資源物が何に生まれ変わったかが約2割
- 市はどのような取組を行うべきかについて  
分別が分かりにくいものを広報で取り上げるが約4割、マイボトル等の使用促進が約3割  
リサイクルショップ等の情報提供が約3割、簡易包装や店頭回収の店舗の情報提供が約2割

出典：令和6年度 市民Webアンケート（資源物とごみに関するアンケート）

**プラ製容器包装を約2割の方が普通ごみに出している。理由は分別の手間、汚れ具合等が分からない**

## (4) 市民アンケート結果（市民の主な意識等）

### ○令和6年度 市民WEBアンケート（年代別）による廃棄物に関する市民意識等

<主なクロス集計結果>

- プラ製容器包装を普通ごみ**に出している割合は、全体約2割に対し、**10～20代は約3割**（川崎区はプラスチック資源）
- 古着などを普通ごみ**に出している割合は、**70代が5割超と最も高い**。一方、**10～20代はインターネットを利用して売却するなど、リユース・リサイクルの割合が他の年代よりも高い**
- ごみの分別に迷った際に10代や20代の約4割は普通ごみに出す一方で、30代以上は市ホームページや「資源物とごみの分け方・出し方」を確認する割合が約4～6割**
- ごみの分別や3Rの関心があるかについて、全体約7割に対し、10～20代は約6割**
- ごみの分別や3Rの広報媒体の充実について、全体はホームページが約5割と高い一方、10代や20代はSNSが約5割、50代以上では市政だよりが約5割と高い**
- リユースの取組は、年齢が高い方が詰め替え商品を利用している傾向があり、年齢が低い方がフリマアプリなどを積極的に利用している傾向にある**

出典：令和6年度 市民Webアンケート（資源物とごみに関するアンケート）



**若年層は分別意識や関心が低い傾向が見受けられる一方、古着のリユース・リサイクルの意識は高い  
広報媒体の充実は、若年層がSNSの活用を希望する一方、50代以上は紙媒体の活用の希望が多い**

- 01 | 計画の概要
- 02 | 主な取組
- 03 | ごみ排出実績及び課題
- 04 | プラスチック資源の一括回収
- 05 | 市民アンケート結果
- 06 | **次期廃棄物計画の改定に向けて**

## (6) 次期廃棄物計画の改定に向けて (国の動向)

国の「第5次循環型社会形成推進基本計画 (**循環経済を国家戦略に位置づけ**)」などの主なポイント

### ○3R推進と資源循環の強化

- ・循環経済への移行に向けて、**3R+Renewable (バイオマス化・再生材利用等)**の推進や資源循環のための事業者間連携による**ライフサイクル全体での徹底的な資源循環**が必要
- ・製造業・小売業等などの動脈産業における取組と廃棄物処理・リサイクル業などの静脈産業における取組が有機的に連携する**動静脈連携**による資源循環を加速

### ○カーボンニュートラルに向けた脱炭素化の推進

- ・循環経済への移行とネット・ゼロの実現を統合的に進める「**脱炭素型資源循環**」の実現
- ・**廃プラスチック等の排出抑制**及び素材・原料への再生利用の推進
- ・熱回収の高度化と将来的なCCUSとの組合せ等による**廃棄物処理システム全体の脱炭素化**を推進

### ○多種多様な地域の循環システムづくり

- ・地域社会において資源循環基盤となる取組の構築に向けた施策を推進
- ・住民・事業者等と連携し、**循環資源を各地域・資源に応じた最適な規模で循環**させる仕組みづくり

### ○今後の社会状況や災害時も含めた持続可能な適正処理の確保

- ・**少子高齢化やライフスタイルの変化**に伴うごみ排出量や組成の変化への対応
- ・適正な処理体制の確保、将来コストの抑制とともに、**災害に備え廃棄物処理体制の強靱性**を確保
- ・廃棄物処理・資源循環行政や資源循環産業の**担い手確保**のための人材育成

## (6) 次期廃棄物計画の改定に向けて

### ○次期廃棄物計画に向けた検討の視点

- ・ より一層のごみ減量・資源化の促進や安定的かつ効率的・効果的な廃棄物処理体制の構築
- ・ 2050年のカーボンニュートラルやSDGsの達成に向けた廃棄物処理に係る脱炭素化やプラスチック資源循環の推進
- ・ 少子高齢社会の到来やライフスタイルの変更など社会状況の変化に伴い多様化する市民ニーズを踏まえた取組
- ・ 循環経済・循環型社会の実現に向けた一般廃棄物・産業廃棄物の連携強化（資源循環・脱炭素化・災害対応等）

### ○計画改定スケジュール（予定）

- ・ 2026年度を始期とする新たな次期廃棄物計画について、専門的に調査審議をするため、学識経験者と市民で構成される「川崎市環境審議会資源循環部会」を設置し、審議

2024年度 5月	6~12	1	2~3	2025年度 4~9	10	11	12~2	3月
環境審議会 諮問					答申	パブ コメ		策定